



革命、激変、大変革。今年も大教体育会は勝利へ向けて大きく、また静かに地殻変動を興し続けている。今号の『大教スポーツ』はRevolutionをグランドコンセプトに据えつつ、飽くなき挑戦を続ける各部活のなかでも特筆2団体をここにピックアップ!!

Revo lution!!



秋季リーグ開幕前に勝利を誓う!
(前列右端が菱刈さん、前列左から2人目が松田さん)

「目標の達成」は、アスリートなら誰もが目指すところ。今シーズン、その目標である「三部昇格」と維持を達成した「女バレー」の勢いが止まらない。その勝利の軌跡について、主将を務めた菱刈紗々さんと立役者の一人である松田碧音さん(共に教育協働学科スポーツ科学専攻4回生)にインタビュー!!

— 今シーズン
を振り返って
菱刈 春季リーグは厳しい戦いでしたが、「自分たちの本心でぶつかりあう」ことで戦うことができたと思います。また昇格後の秋季リーグで三部を維持するには、「自分の弱さを敢えてさらけ出す」ことで勝利への意志をお互いが確認

でき、自分も頑張ろうとの気持ちを持てたことが勝利の要因だと思います。
松田 「本音でぶつかりあう」というか、部員が自らの思いを言葉や行動にはっきり現わして気持ちを伝え、皆がつかっていることを実感したシーズンでした。

— チーム改革、問題意識について
菱刈 「相手の顔を見て、コート内で絶えず話

する」ことを意識しました。競った場面や苦しい展開になると自分のプレーばかりに集中してしまい、独りでプレーする感覚に陥った時もありました。その際には周りの選手がいかに状況を判断して声を出せるかが重要になるので、それをチームに徹底して呼びかけたことでコート上の全員がつながったと思います。

松田 コミュニケーションが大切なので、各プレーで声を掛け合い、お互いの顔を見て競技することを心がけていました。
— シーズン中の苦
菱刈 結果が出ない時のモチベーション維持に苦労しました。自分たちの形を見失いそうになることもありましたが、原点に立ち戻り「なぜ自分たちがこの練習をするのか」を明確にすることで、その達成できたときは自信にもなり、よい結果につながったと思います。

達成、三部昇格! 女子バレーボール部!!



日々の練習は基本に忠実!
(大阪教育大学柏原キャンパスにて)

— 次の代への期待
菱刈 少ない部員数や限られた練習環境を言い訳にしてほしくない。できる

ラグビー部!! 新戦力多数で下剋上!



2025年度リーグ戦にて、ボールを確保し奮戦する川本遼太郎さん

ことに眼を向け、掲げた目標をやりきってほしいと思います。

松田 当初の目標は二部昇格だったのでそれを忘れず、高い目標を持ち続けて練習もそのレベルに合わせる心で創り上げていってほしいと思います。

— 応援していただきたい方々へのメッセージ
菱刈 温かい応援ありがとうございました。応援があったからこそ自分も頑張ろうと思え、応援により私のバレーを後悔なくやることができました。

松田 SNSでの応援など、競技者として頑張る気持ちになりました。とても有難かったです。感謝しています。



2025年度菅平合宿にて部員結束!

新戦力は革命を興す原動力となる。新たな発想、刺激、活力の注入がスポーツの歴史を動かす事実。アスリートの常識だ。本年度ラグビー部は新入部員を多数獲得して戦力アップで次の頂を狙う。その熱量を川本遼太郎さん(教員養成課程小中教育専攻国語教育コース三回生)、そして中島勇征さん(同専攻保健体育コース三回生)に伺った。

— 今年度に入部員が多数入部した理由と工夫した点は
新戦力の取り組みを大きく変えて、今まではラグビーを知ってもらおうという意図が

らグラウンドでボールを触ってもらう形式の新戦が多かったです。けれど今年はまずチームのメンバーや雰囲気を見てもらうというところで、ラグビーの無い環境でバレーやバドミントンやバレーをやる人も多く、結果として入部者も多かったと思います。

「新しいスポーツを始めるかも」との不安の中、この人たちと一緒にやってみようという感覚を知ってほしかったです。

— 新入部員の増加で練習やチームの雰囲気などにどんな変化が生まれ、部員増で可能になった取り組みは
練習内外で部内に明るさが増えた印象です。一年生同士も仲がいいですし、その雰囲気も上にも伝わって全体の雰囲気も明るくなったと思います。また部員が多くなるとトレーニングや体重の管理班を作ったり、ウォーム

アップを担当する「SC班」という部署にも人数を割いたりして、できる活動が広がりました。

— 前の代から継承してきたこと、反対に自分たちの代で考えてきたこと
大教大ラグビー部は学生自身が考えてチームを動かす、試合計画も決めてチームを作っていく「自主性」が特徴で、去年もその伝統を受け継いで活動していました。また従来の変えたいところとして、数学による可視化で体重の変化をグラフにし、個人の能力や持久走のタイムも見えるようにすることでモチベーションの向上を分かりやすくしました。

— 次シーズンに向けて
先輩方の思いとしてはBリーグへの再昇格を期待してくれていると思います。各々が自覚と責任を持って行動し、チームに貢献する意識を持ちながら力を合わせてBリーグにもう一度戻ってほしいと思ってきました。

— 入部検討者やファンへのメッセージ
「いつも応援してくれてありがとうございます」が一番です。またメンバーの少ないことがやはり課題。ラグビーに触れたことがない人でもいてくれるだけで力になりますし、ラグビーがおもしろいと思うたその瞬間に連絡してもらいたいです。

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

令和8年3月25日(水) 14号

発行 大阪教育大学体育会 / 編集長 林洋輔(保健体育部門准教授)

編集員 高瀬寛太(理科教育コース3回生・男子ラクロス部)、有吉孝太郎(国語教育コース2回生・男子ラクロス部)、神田浩平(理科教育コース4回生・男子ラクロス部)、下代奈穂(スポーツ科学専攻3回生・モダンダンス部)、玉置莉子(健康安全科学専攻2回生・モダンダンス部)、齋藤菜央(健康安全科学専攻4回生・女子ラクロス部)、中世良七(技術教育コース2回生・女子ラクロス部)、植村部登(社会科教育コース3回生・卓球部)、石山陽菜(美術表現コース3回生・弓道部)、相澤晴日(健康安全科学専攻2回生・卓球部)、樋口新(社会科教育コース2回生・空手道部)、佐々木花(スポーツ科学専攻2回生・体操競技部)、友成優仁(小中保健体育専攻3回生・硬式庭球部)、中村優(理科教育コース2回生・硬式庭球部)、園井晴香(国語教育コース3回生・合気道部)、岸美月(健康安全科学専攻2回生・合気道部)、川崎颯志(国語教育コース2回生・空手道部)、内藤祐飛(教育心理学専攻2回生・弓道部)、内村惺(スポーツ科学専攻3回生・体操競技部)

2面 令和七年度 主な成績・活動一覧 / Giving Campaign紹介
3面 学長杯団体賞 / 学長杯個人賞 / 令和七年度体育会学長杯受賞者・団体一覧
4面 我が体育会(第14回)太田順康先生 / 編集後記

令和七年度 主な成績・活動一覽

※成績の①=1回生、②=2回生、
③=3回生、④=4回生、
M1=大学院1回生、
M2=大学院2回生

| 部活名 | 大会名 | 成績 | 部活名 | 大会名 | 成績 | |
|-----------------|--|---|---------------|--------------------------|---|--|
| 男子 バスケットボール部 | 2025年度 関西学生バスケットボールリーグ戦 | 2部8位 | 剣道部 | 第49回 関西女子学生剣道優勝大会 | 女子団体 第2位 | |
| | 2025年度 関西学生バスケットボール秋季トーナメント | ベスト8 | | 第44回 全日本女子学生剣道優勝大会 | 女子団体 出場 | |
| 女子 バスケットボール部 | 第3回 全関西大学女子バスケットボール新人戦 | ベスト8 | 柔道部 | 全日本ジュニア柔道体重別選手権 大阪府予選 | 男子73kg級 優勝 酒井裕成① | |
| | 2025年度 全関西大学女子バスケットボールリーグ戦 | 2部7位 | | 関西学生柔道優勝大会 | 男子団体 ベスト8 女子団体(3人制) 優勝 | |
| | 2025年度 全関西大学女子バスケットボール 秋季トーナメント大会 | ベスト8 | | 全日本学生柔道優勝大会 | 女子団体(3人制) 5位 | |
| 男子 バレーボール部 | 2025年度 関西大学バレーボール春季リーグ戦 | 3部8位 | | 第19回 近畿ジュニア柔道体重別選手権大会 | 女子48kg級 準優勝 谷口睦稀① | |
| | 2025年度 関西大学バレーボール秋季リーグ戦 | 4部5位 | | 関西学生柔道体重別選手権大会 | 男子73kg級 準優勝 宮下真八④ | |
| 女子 バレーボール部 | 2025年度 関西大学バレーボール春季リーグ戦 | 4部2位(3部昇格) | 合気道部 | 2025年度 皐月演舞会 | 出場 | |
| | 2025年度 関西大学バレーボール秋季リーグ戦 | 3部6位 | | 空手道部 | 2025年 糸洲流国際空手道選手権大会 | 個人組手 18歳以上女子 優勝 岡崎琴子② 団体組手 18歳以上女子 優勝 衣川夏葵③ |
| 男子 ハンドボール部 | 2025年度 関西学生ハンドボール春季リーグ戦 | 2部6位 | 体操競技部 | | 第14回 関西学生空手道 オープントーナメント大会 | 男子組手ジュニア ベスト8 大坂都夫② |
| | 2025年度 関西学生ハンドボール秋季リーグ戦 | 2部7位 | | 第46回 全国国公立大学空手道選手権大会 | 女子団体組手 ベスト8 | |
| 女子 ハンドボール部 | 2025年度 関西学生ハンドボール春季リーグ戦 | 2部2位 | 陸上競技部 | 第67回 関西学生体操選手権大会 | 男子個人総合 第40位 則末拓也④ | |
| | 2025年度 関西学生ハンドボール秋季リーグ戦 | 2部2位 | | 第79回 全日本学生体操競技選手権大会 | 2部 女子個人総合 52位 佐々木花② 2部 女子個人総合 70位 坂本優奈③ | |
| 硬式野球部 | 近畿学生野球春季リーグ | 3部3位 | 陸上競技部 | 第102回 関西学生陸上対抗選手権大会 | 女子走り高跳 優勝 苅谷真奈③ 男子やり投 優勝 朝田康聖(M1) 男子十種競技 優勝 田中陽介(M2) 棒高跳 優勝 松井愛果① 男子800m 優勝 前田充輝② | |
| | 近畿学生野球フレッシュリーグ | 決勝トーナメント3位 | | 第94回 日本学生陸上競技対抗選手権大会 | 女子棒高跳 6位 松井愛果① 男子十種競技 3位 田中陽介(M2) | |
| | 近畿学生野球秋季リーグ | 3部2位 | | | 第65回 全国教育系大学陸上競技大会 | 男子200m 優勝 古阪優樹③ 男子400m 優勝 西本統士④ 男子1500m 優勝 吉田健太郎(M1) 男子110mH 優勝 足立英士① 男子400mH 優勝 内藤源一郎(M2) 男子棒高跳 優勝 中島央人(M2) 男子走幅跳 優勝 小椋ジョナス伸① 男子円盤投 優勝 菅野孝心④ 女子100m 優勝 前原ゆい④ 女子走り高跳 優勝 苅谷真奈③ 女子棒高跳 優勝 松井愛果① 女子走幅跳 優勝 飯田美優② 女子やり投 優勝 大杉遥子③ 男子4×100mR 優勝 |
| 準硬式野球部 | 令和7年度 阪神六大学春季リーグ戦 | 3位 | | 関西学生陸上競技種目別選手権大会 | | 男子5000m 優勝 吉田健太郎(M1) |
| | 令和7年度 阪神六大学秋季リーグ戦 | 3位 | | 第78回 西日本学生陸上競技対抗選手権大会 | 女子棒高跳 5位 松井愛果① | |
| 男子サッカー部 | 2025年度 第103回 関西学生サッカーリーグ(前期) | 2部11位 | | バドミントン部 | 第50回 近畿国立教育系大学 バドミントン選手権大会 | 男子団体 優勝 女子団体 優勝 |
| | 2025年度 第103回 関西学生サッカーリーグ(後期) | 2部10位 | | | 令和7年度 大阪学生バドミントン 選手権大会(団体戦の部) | 男子 3部3位 女子 2部3位 |
| ラグビー部 | 2025年度 関西大学ラグビーリーグ | Bリーグ12位 | | 水上競技部 | 第76回 関西国公立大学選手権水泳競技大会 | 団体 男子総合5位 女子総合7位 |
| | 2025 関西学生アメリカンフットボールDiv.2 | 8位 | | | 第99回 関西学生選手権水泳競技大会 | 団体 男子2部5位 女子2部8位 |
| 硬式庭球部 | 令和7年度 関西学生春季テニストーナメント | 女子シングルス ベスト64 坪井颯来④ 女子シングルス ベスト64 野村美晴② 女子シングルス ベスト64 山内華乃① | | | スキー部 | 第72回 全国国公立大学選手権水泳競技大会 |
| | 令和7年度 関西学生地域(大阪・奈良・和歌山) テニストーナメント | 女子シングルス 優勝 山内華乃① 女子ダブルス 優勝 前田星佳② 山内華乃① | 女子サッカー部 | 第94回 全関西学生スキー選手権大会 | | 3部 リレー3位 |
| ソフトテニス部 | 2025年度 関西大学対抗テニスリーグ戦 | 男子団体 3部残留 女子団体 2部残留 | | 女子ラクロス部 | 2025年度 関西学生 女子サッカーリーグ春季リーグ | 2部3位 |
| | 令和7年度 関西学生テニス選手権大会 | 女子シングルス ベスト16 山内華乃① | 関西学生サッカー秋季リーグ | | 2部4位 | |
| 卓球部 | 関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 | 男子 3部3位 女子 4部4位 | 弓道部 | 関西国公立大学交流戦 | 優勝 | |
| | 関西学生ソフトテニス選手権大会兼 第80回全日本ソフトテニス選手権予選大会 | 男子個人 ベスト64 吉谷啓吾③ 酒井夢叶③ 男子個人 ベスト64 黒田彪賀③ 橋本将幸② | | フィギュア スケート部 | 第35回 関西学生ラクロスリーグ | 3部Aブロック2位 |
| 剣道部 | 第3回 近畿国公立大学ソフトテニス大会 | 男子団体 優勝 大阪教育大学B 男子個人 優勝 藤井明日舞① 神谷直太郎① | 男子ラクロス部 | | 第41回 全国教育系大学弓道選手権大会 | 女子団体 優勝 |
| | 第68回 全国教育系大学ソフトテニス大会 | 男子個人 優勝 藤井明日舞① 神谷直太郎① | | 山岳部、L.S.B.、 モダンダンス部 | 第3回 近畿学生氷上競技選手権大会 | 新人戦女子 12位 野口くるみ① 2級女子 13位 藤井泉綺③ |
| 卓球部 | 関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦 | 男子 3部4位 女子 4部2位 | 女子ラクロス部 | | 第35回 関西学生ラクロスリーグ戦 | 3部4位 |
| | 第3回 近畿国公立大学ソフトテニス大会 | 男子個人 優勝 藤井明日舞① 橋本将幸② 女子個人 優勝 吉宗海凜③ 水野碧③ | | 特になし | | |

感謝を力に! Giving Campaignからの飛翔!!



試合での西名真沙選手(左)と橋本幸々路(こころ)選手(右)

学生団体を援助する資金調達イベント、「ギビング・キャンペーン」。「応援数」により協賛企業から寄付いただく本事業で学内二位の女子バスケットボール部の声を西名真沙さん(教育協働学科スポーツ科学専攻三回生)、中井彩莉さん(教員養成課程中等教育専攻音楽教育コース三回生)に伺った。

—— Giving Campaignに
参加して。
西名さん うれしい気持ちが一番です。このキャンペーンに参加しようとして去年から話していたので、学内一位をとれたのはうれいす。

—— 寄付はどのよう
に役立てたいと考えて
いますか。
中井さん 備品に
古いものが多く、また
経済的な問題もあり備
品の補充に使わせても
らえたらと思います。

—— 今後達成したい
目標は
西名さん 昨シー
ズンはリーグ戦七位と
いう結果でしたが、最
後のシーズンはさらに
良い順位を残し、一部
昇格を目指して頑張り
たいです。

—— 応援してくだ
さい。
中井さん Giving
Campaignで投
票してくださった方、
本当にありがとうございます。
活動で制約も
あるなか、応援をして
くださる方がおられる
のは本当に心強いです
し、今後とも温かく応
援してくださいとらと
思います。

西名さん 目に見え
る形で応援メッセージ
や寄付をいただくのは
初めてだったので、た
くさんの人に支えられ
ているのを感じた
キャンペーンで、本当
に参加してよかったで
す。現状に満足せず、
部員がさらに感謝の気
持ちをもって日々練習
に励むことが大事です
し、結果で恩返しして
感謝を伝えられる、応
援いただけるチームに
なりたいと思います。

躍進の旗手たち堂々! 学長杯各賞 決まる!!

学長杯 団体の部 受賞 剣道部

学長杯団体の部の受賞が決まった瞬間は、素直に嬉しかったなど感じておられます。試合(勝つ)ことはもちろん、OBの先輩方や応援して下さる方々に感謝の気持ちを届けられたらという思いで活動



寒稽古にて、心身の練習に余念なし!

してきましたが、自分たちの頑張ってきた成果が賞を頂戴する形になり、素直に嬉しいと感じておられます。監督の太田先生をはじめ指導して下さる先生方、そして先輩方の支えがあって稽古をさせてもらっていたので、この支えがあったからこそ今回の成果につながったのではないかと感じています。

チーム全体としても部員各々が互いにコミュニケーションをとるようになり、個々に絆が生まれて先輩後輩の別なく意識疎通できるチームになっていったところが苦しみながらも得られた成果だと思います。特にチーム全体にわたるコミュニケーションを通じて不安の解消できるチーム作りができたと思います。

し、主将の私自身も変わっていかねば、この志のもとで自分から話しかけたり聞いたりしたのが良かったのかなと感じておられます。

主将に就任してから太田先生をはじめ、多くの方々と話す機会が増えていろいろな教をいただき、それらの教をこれらに向けて活かしていきたいと思っています。またコミュニケーションを重ねることでお互いに信頼関係が生まれ、思ったことを素直に伝えられる関係も生まれると思います。これからもどんどん人と関わって自分の意見を表明する中でお互いに切磋琢磨出来たらと考えております。

学長杯 団体の部 受賞 柔道部



関西学生柔道優勝大会後に部員団結!

このたびはこのよう賞に選出していただき誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。今年度の成績を振り返ると、男子は全国国立柔道優勝大会で準

優勝、全日本学生柔道優勝大会への出場を果たしました。また女子は、全日本学生柔道優勝大会三人制の部において五位という結果を残すことが出来ました。男女ともに関西を代表して大阪教育大学の名を背負い、全国の舞台で活躍できたことをとても誇らしく思います。

これらの結果は選手・コーチ・監督が一体となって協力し、日々の練習に真摯に取り組んできた結果であると感じています。特に団体戦では、一人ひとりの勝敗がチーム全体の結果に直結するため、個々が自分の役割と責任を意識しながら試合や練習に挑んできました。また、OB会をはじめとする多方面からの温かいご支援のおかげ

教育協働学科スポーツ科学専攻 宮下真八主将にインタビュー

宮下真八 選手

学長杯個人の部 受賞 柔道部 教育協働学科スポーツ科学専攻

率直に、今回このような光栄な賞をいただき、とてもうれしい気持ちでいっぱいです。これまで柔道部の歴代の先輩方が学長杯個人賞を受賞される姿を見てきたので、自分にとって憧れの存在であり、目標としてきた賞でもありました。その賞を自分が受賞できたことを、大変誇りに思っています。日々の練習では、常に自分自身の課題に向き合うことを大切にしています。出ない時期や、コンディションが整わない

日もありましたが、そのような状況でも課題から目を背けず、あきらめずに努力を続けてきました。その積み重ねが、今回の受賞につながったのだと感じています。

ここまでの成長することができたのは、共に練習に励んできたチームメイトや、日頃から指導してくださった監督をはじめ、多くの方々の支えがあったからこそです。柔道は一人では成り立たない競技であり、日々の練習や試合前のウォーミングアップなど、仲間の

力することの大切さやそれがどれだけ良いことかはこの四年間で気付けたと思います。常に新しいことに挑戦する姿勢や「よい良いものを作ろう」、「新しいことをしよう」、「もっとこうしたら良くなるのでは」など常に上を目指す気持ちは、社会人になるとなかなか難しくなると思いますが、これらの気持ちは忘れずに進んでいきたいと思っています。

存在が常に大きな力になってきました。監督からいただいた的確なアドバイスも、自分の技術や意識の向上に大きくつながりました。苦しい時期も周囲の人たちと協力しながら努力を重ねてきた結果が、この賞だと受け止めています。この経験を今後の競技生活に活かして、さらに成長していきたいです。



宮下真八 選手

とても嬉しかったのが一番ですが、マネージャーにもスポットライトを当てて評価していただけたのが特に嬉しかったです。自分で時間を作って常に上を目指す心や新しいことに挑戦する気持ちを持っていて、時間を無駄にしないようにと考えていたの、それが頑張れた理由というか受賞の一番の要因だと思います。

大学の授業やマネージャーの仕事など時間不足になることが多く、夜遅くまで会議があるなど時間的な辛さはありませんが、協



鈴置結希奈氏

鈴置結希奈氏 学長杯個人の部 受賞 準硬式野球部 教育協働学科スポーツ科学専攻

「どんな運営をしてどんな大会にしたいか」、またどんな結果を望むかと考えたら苦にはならなかったです。未来を考えれば、時間がなくても乗り越えられたかなと思います。

仲間と協力する大切さは特にこの四年間で気づけたこと思っていて、仕事をかかせずたり、「自分でやらなければ」と思ったりするところの多い性格なので、人に任せることがなかなかできませんでした。しかし独りでできることは限られているので、仲間仕事を依頼したり手伝ってもらったりすることなく、協

常に新しいことに挑戦する姿勢や「よい良いものを作ろう」、「新しいことをしよう」、「もっとこうしたら良くなるのでは」など常に上を目指す気持ちは、社会人になるとなかなか難しくなると思いますが、これらの気持ちは忘れずに進んでいきたいと思っています。

令和七年度体育会学長杯 受賞者・団体一覧

| タイトル | 受賞者・団体 | 主な受賞理由 |
|-----------------|-----------------|---|
| 学長杯団体賞 | 剣道部 | 第57回全国教育系大学学生剣道大会 男子団体優勝・女子団体優勝 / 第49回関西女子学生剣道優勝大会 女子団体2位 |
| | 柔道部 | 第75回関西学生柔道優勝大会 男子団体ベスト8 / 第33回関西学生柔道優勝大会 女子団体(3人制) 優勝 / 全日本学生柔道優勝大会 男子団体出場・女子団体(3人制) 5位 |
| 学長杯個人賞 (4年間の成績) | 宮下 真八 (柔道部) | 2023年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 男子73kg級3位 / 2024年度第43回全日本学生柔道体重別選手権大会 男子73kg級3位 / 2025年第44回全日本学生柔道体重別選手権大会 男子73kg級5位 |
| | 鈴置 結希奈 (準硬式野球部) | 2023年度関西選抜チームマネージャーに選出 / 2024年度甲子園大会プロジェクトチーム学生委員長選出 / 関西地区大学準硬式野球連盟学生委員会初代学生委員長 / 2025年度全日本大学選抜チームチーフマネージャー兼主務選出 / 甲子園大会プロジェクトチーム学生副委員長選出 / 全日本大学準硬式野球連盟委員会広報委員長選出 |
| 殊勲賞(団体) | 空手道部 | 第66回全関西大学空手道選手権大会 女子団体組手 代表枠決定戦勝利 / 第69回全日本大学空手道選手権大会 女子団体組手 2回戦進出 |
| 殊勲賞(個人) | 千葉 康生 (準硬式野球部) | 春季リーグ戦11試合登板、防御率1.41 (最優秀防御率賞)、ベストナイン選出 |
| 敢闘賞(団体) | 女子バレーボール部 | RIGAIL CUP 関西大学バレーボール連盟女子春季リーグ4部2位 3部昇格 |
| | 卓球部 | 令和7年関西学生卓球秋季リーグ入替戦 男子3部昇格 |
| 体育会会長杯 | 女子ラクロス部 | 渡辺パイプpresents第35回関西学生ラクロスリーグ3部リーグ 4勝1敗Aブロック2位 2部昇格 |
| | 松井 愛果 (陸上競技部) | 第94回 日本学生陸上競技対抗選手権大会 女子棒高跳び6位 / 秩父宮賜杯第78回西日本学生陸上競技対抗選手権大会 女子棒高跳び 5位 |
| 体育会 顧問 奨励賞 | 田中 陽介 (陸上競技部) | 第102回関西学生陸上対抗選手権大会 男子十種競技優勝 / 第94回日本学生陸上競技対抗選手権大会 男子十種競技3位 |
| | 眞野 義久 (剣道部) | 第73回関西学生剣道選手権大会3位 / 第72回全日本学生剣道東西対抗試合 西日本代表として出場 / 第73回全日本学生剣道選手権大会出場 |
| | 枝 美咲 (剣道部) | 第55回関西女子学生剣道選手権大会 第3位 / 第19回全日本女子学生剣道東西対抗試合 西日本代表として出場 / 第59回全日本女子学生剣道選手権大会出場 |

太田順康先生インタビュー (保健体育部門教授)

我が体育会

第14回

「温故知新」をテーマに本学体育会とゆかりの深い先輩方にインタビューする本企画。第14回となる今回は本学剣道部顧問、体育会理事長をはじめ永年にわたり体育会全体をけん引、指導してこられた太田順康先生にご自身の軌跡から学生への思い、そして教育観にわたって大いにお伺いしました！



太田順康先生

—— 来歴から大阪教育大学に着任まで
祖父が地元の鳥取に伝わる難井蛙派の師範で、家に道場もあり小さな時から剣道をずっとやってきました。親父は終戦の後に剣道が禁止のため、野球をやり、おふくろは軟式テニスをやりました。僕が子どもの時に、親父が脱サラしスポーツ店をはじめました。そこで店のお客さんのために、体育館やスポーツ施設を借りてあげるサービスをはじめ、その流れでスポーツクラブを立ち上げました。野球、テニス、バドミントン、スキー、ゴルフもありましたね。今でいう総合型スポーツクラブですね。僕は小学生だった

けど、大人に連れられてほぼすべてのスポーツをやりました。リトルやジュニアスポーツの走りです。特にまったのが、スキー。冬になると毎週末、お店が仕立てたスキーバスに乗りスキー三昧、小学校二年で初めて競技(アルペン)に参加、西日本大会や全中(全日本中学選手権)に出場していました。もちろん剣道でも国体や少年剣道の国際大会に出させてもらいました。ずっとそういう生活だから、体育・スポーツが大好き。それで、体育・スポーツのことを勉強し、将来は先生や指導者になって体育・スポーツ好きをいっぱい作って、体育・スポーツの

良さを世界に広めたいなって思って筑波大学に進学しました。昭和60年に筑波の大学院を修了して、鳥取で地元の国体(わかとり国体)にかかわり、一旦、筑波に戻り、昭和61年に、ここ(大阪教育大学)へ来ました。—— 体育会剣道部を率いての指導実績と難しい指導実績といわれると難しいですね。一般的な競技の成績では、団体では全日本準優勝、西日本三連覇、個人では全日本王者二人、関西王者も五、六人。剣道はチャンピオンは年一人だから凄いことです。ただしこれは本人たちの努力の賜ですよ。それが生れるような環境をつくるのが実績かな、それによりこれまで部員それぞれが実績を残してくれましたね。それ以上に卒業後、剣道界にかかわる教え子が増え、警察官大会優勝や全日本選手権出場、昇段審査では七段が30名以上、指導者としてはインターハイ、全中で監督する卒業生が生れたことが嬉しいですね。先日は「孫弟子剣道大会」(教え子が指導している学校が集まる

大会)で、50校近く550人くらいの高校生が参加してくれました。もちろん中学生大会でも沢山集まってくれます。「スポーツの良さと大事さも広めたい」という僕の思いを、教え子たちが引継ぎ、スポーツの良さと大事さを広めていくことですね。ただ、生徒は教えてもらうのは誰でもいいということではなく、ある程度力をつけて実績を持ち、剣道に関する知識をもって、人柄のいい人に教えてもらいたいと思う。だからこそ、今の大阪剣道部や体育会には頑張ってもらってほしい。勉強も剣道もがんばれ。実績をきっちり作ると、人は話を聞いてもらえるしサポートもしてくれ、そう思います。—— 学内外の要職を歴任して

学長補佐、附属校の校長や体育会代表や生協理事長など、様々な25年くらいやってます。なんで引き受けたのかなと考えたら、管理職になれば体育・スポーツ専攻や体育会の学生をサポートしやすいたらうなと思って引き受け、頑張りましたよ。学校現場でも管理職になるのは嫌だなと言

う人もいるけど、生徒や自分の関係する場所を直接守るという守り方もあると思います。役職があがれば、多方面から学生を守ることができるとかと思う。どの職も大変だったけど、やりがいがありました。支えてくれた皆さんに感謝します。—— 教育者、指導者として依拠する指針や哲学ひとつは「文武併進」。「修文練武」「左文右武」「文武両道」いろいろありますが、鳥取藩校の校訓、「併に進む」ほうが好きだな。もう一つは「事理一致」。技術は理論の裏付けがあり、理論を実践する。それができないと、いまも稽古しますが、「こつしたらいいんじゃないか」って感じたこと、伝書や指導書で発見したことを、自分で実践してみる。感覚だけでできた時は、裏づけの理論を探る。それを目指さんとあかん。下手な人ってなかなかうまくならなくて、「どっしりしていやろ」って喘いで苦しむ。同じことを指導者の僕らも自ら苦しんだ経験と、こうしたらできた、こう考えたらできたという体験を積ま

ない。パッとやったらできたではなく、理と事を考えながら、繰り返すことでできた。いつまでも技術を追求して、もうちょっとこつしたらいいなと練習する。だから絶対やることを諦めたいかん。それが稽古。考えてある理論、繰り返して身につく技術、業、だから「事理一致」と「文武併進」が大事。—— 大教生について思うこと、そして教育とは

大教生は他の大学と比べたら真面目。「守破離」という教えを今一度考えて欲しいかな。「守破離」とは、学ぶ段階のこと。まずは「守」。いろんなものを守り基礎をつくる。守るとは「まねる」こと、ルール、教え、習い、基礎、基本をまねる事で守る。次に「破」を破る。「破」、そして師から離れて自立する「離」。一番大事なのは「破」のタイミング。うまいこと破れないと。基礎や基本ができたら、その卵の殻をカーンと割って育ていくようなことをやらなあかん。だけども、(学生は)基礎、基本はめんどくさいし、いきなり自分も外



「剣の理法」を示範!

に出ようとするけど、それはちょっと違うでしょう。「啐啄」って言葉がある。この「啐啄」って感じが最近にない。卵の殻の中にひな鳥がいるよね、親鳥はこれをコンコン、ひな鳥もコンコンコン。ひな鳥は殻の中で、充分に育った、外に出て大丈夫という、ここぞという時に親鳥は上から殻を破る手助けをする。教育、教師とはそういうもの。弟子はまず「守」で基礎基本をつくる、師は充分に基礎基本ができたに判断した時、上からコンコンで、弟子の殻破りを手助けしてやる。今の学生は殻を破るにも教師との作業が必要で、教師が理解できていない子どもも多く、なんでもかんでも自分の判断で全部やらなきゃいけないみたいになって、充分に育たないで飛び出して見たり、殻の中に籠って見たり、タイミングが悪いと思うときもあるね。自分たちがどうやって教師とのタイミングで共同作業で殻を破っていくか、こういう師弟関係が最近ちょっと薄

いかなと思ってます。教師になる人、指導者になる人は、特に考えて欲しいなと思う。—— 後進へ伝えたいこと

「マニュアル前例主義」に陥ってないか。「去年通りにやる」も大事だし、確かに効率的ですけど、確かにこの前も指示を出したとき、「去年はこうでした」とか言って、動こうとしな

い。だけど「去年通り」ということは、ある程度安心だけど、もう去年以上にはならない。伝統ができた、だから去年や過去を参考にするのは、すごく大事だけど、やっぱり「去年以上、これまで以上に」ってほしいと思う。練習メニュー一つにしても、去年と同じではなく去年以上にやって欲しい。「前例はこうだから」とかいう前例主義っていうかな、やれば失敗は少ない。その気持ちもよくわかるよ。でもそれではこれまで以上にない。失敗を恐れないで、一からマニュアルつくる気で、チャレンジして欲しい。きっと新しい世界が開けると思うよ。

紙面製作の主幹を務めました体育会広報部長の高瀬寛太です。今年度の制作コンセプトは「Revolution」、つまり革命として大変革です。部員同士で共にサポートしながら勝利を目指して小さな目標を達成し、トラブルや困難を乗り越えていく。そのなかで部員の心には改革への意識や工夫への努力が生まれます。「革命」や「大変革」というと少し大きめに聞こえるかもしれませんが、部員たちが一丸となって課題へ取り組み、真摯な姿勢が、いずれ「この社会を変えていく」原動力になればと願っています。

末筆ながら今回も多くの皆様のご支援をいただき紙面が完成しました。取材をご快諾くださった関係各位、そしてご助言いただいた編集長の林先生はじめ皆様様に心より御礼申し上げます。

編集 後記

教員養成課程 理科教育コース 3回生 高瀬寛太